



第2回「軍事費についてのグローバルアクションデー2012」 参加のお誘い

2012年4月17日、世界中の人々が『軍事費についてのグローバルアクションデー』に参加します。あなたもぜひ、ご参加ください。

昨今の経済危機で、世界中の政府が、人間の基本的ニーズへの予算を削減すべきかどうかの選択を強いられました。人間のニーズとは、たとえば気候変動に立ち向かうこと、命にかかわる病気と闘うこと、ミレニアム開発目標を達成することなどです。しかし、勇気あるいくつかの例外をのぞいて、政府の多くが軍事費に多額の予算をつぎ込んでいます。ストックホルム国際平和研究所の2011年発表によると、世界は今、かつてない規模で軍事に投資をしています。現在、年間1兆6300億ドルの軍事費は、今その額を増やし続けています。この金額を他のことに使うことができれば、いま地球が直面している多くの課題が解決に向かうことでしょう。

2012年6月には、ブラジル・リオデジャネイロにて地球サミットが行われます。世界中のリーダーと市民活動家が集まり、持続可能で、全員に雇用と機会のある、グリーンな社会づくりを目指します。「軍事費についてのグローバルアクションデー」は、この地球サミットが開催されるちょうど2か月前です。軍事行動に使われる経済力と知力を解き放つことなく目指す社会を実現することは難しいと、世界中で思い出すための絶好の機会です。

世界の軍事費の約半分は、米国が使っています。しかし、軍事費依存は米国だけでなく、世界中で共有している問題です。つまり、

- 米国はトレンドセッターであり、他国は「リーダーに続け」状態である
- 米国の武器輸出は増加の一途。顧客が途絶えることはない
- 国家予算が米国よりずっと少ない国であっても、政府予算のうち軍事費にかける割合が米国よりも高い国が多い

「ウォール街占拠運動」や「アラブの春」の時代です。

私達はこの要求を通すために、国境を越えてつながらなければなりません。

日時 2012年4月17日(火)

4月17日、ストックホルム国際平和研究所は2011年の数字を発表します。世界各国で行われる『軍事費についてのグローバルアクションデー』は、各地のメディアに写真撮影の機会と行動ストーリーを提供します。各地域の企画者は、グローバルデー当日や、その付近にイベントを開催してください。

昨年は2011年4月12日に行われ、37カ国で約100のアクションが行われました。2度目の開催となる今回は、軍事基地前行動から軍事費に関する講座の企画まで、それぞれの地域にあった行動がとられるでしょう。行動の種類は問いませんが、一番最近の軍事費である約 1.7 兆ドルという数字は必ず使ってください。キャンペーンのスローガンは、たとえば「あなたなら、1.7兆ドルを何に使いますか？」「国家財政が破たんへの危機を迎えようとしている今、数兆ドル分の戦争がいいか、それとも数兆ドルぶんの平和がいいか」「戦争ではなく、雇用を創ろう」などが考えられます。

『軍事費についてのグローバルアクションデー』は国際平和ビューロー(ジュネーブ)と国際平和研究所(ワシントンDC)がコーディネートしています。このキャンペーン成功のため、国際委員会も設置しました。

メッセージを広く発信する意味でも、つながることで互いに学び、より大胆な行動へと結びつける意味でも、アクションは必ず報告してください。行ったアクションの報告に写真や映像をそえて、『軍事費についてのグローバルアクションデー』ウェブサイトまでお送りください。

アクションを盛り上げよう！

軍事費を人間の基本的ニーズへとシフトするために、今後数年間で政治の議論の場に、この問題を持ち込まなければなりません。軍事費の現状を受け入れることを拒否する団体が数千、個人が数百万いることはわかっています—必要なことは、それを目に見えるものにするため、本気で結集する努力をはじめることです。影響力ある語り手の力を借りる必要もあります。労働者から学生まで、幅広い層とつながることで、確実に変化へと結びつけていきましょう。

皆でつながれば実現できます。アクションについてのご質問など、いつでもご連絡ください。

連絡先:

Colin Archer, International Peace Bureau

secgen@ipb.org

<http://www.ipb.org>

John Feffer, Institute for Policy Studies

johnfeffer@gmail.com

<http://www.ips-dc.org/>

<http://demilitarize.org>